



18歳という年齢(公職選挙法の改正にともなって)

校長 吉田 亘

「不易と流行」この言葉を聞いたことのある皆さんも多いと思います。これは、俳人松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の中で見出した俳諧の理念の一つです。まず、普遍的な基礎が大切であるが、時代の変化に沿った新しさも必要だ。という意味ですが、教育の中でもよく使われる言葉です。

教育における「不易」とは、人権尊重、協調性、豊かな人間性、自然を愛する心などこの国でも大切にしなければならない教育のことです。一方、「流行」とは、大きく変化する社会に応じて求められる能力を育成するための教育のことです。ただ、教育における変化は、ある程度時間を掛けて行なわれます。例えば、大学入試改革は、基礎学力テストが5年後からスタートします。アクティブラーニングが話題になっている高校の学習指導要領の変更は、7年後からです。しかし、今、教育にも関わる大きな変化が起きようとしています。

今月公職選挙法の改正が行われ、18歳選挙権が成立しました。来年7月の参議院選挙から高校3年生の一部（18歳に達した生徒）が、投票をすることになるわけです。実は、世界の88%の国は18歳選挙権で、先進国では、日本と韓国（19歳）だけが、異なっています。ですから、改正は当然の流れだとも言えます。しかし、投票に向けて、その準備が十分と言えるでしょうか。

今回の改正で新たに240万票が増えます。若者の投票結果は、国政に少なからぬ影響を与えることも考えられます。歴史的にも、東大の*加藤陽子氏は1900年の選挙法改正で、農業重視から商工業者中心の政治へと変化した歴史について指摘しています。

アメリカ、ドイツ、スウェーデンなどでは、大統領選挙などの実際の選挙の際に、子どもたちの大規模な模擬選挙が行われていますが、それは、単に投票を体験するというよりも、各政党の政策や選挙戦術などを学ぶことに重点が置かれています。日本でもこれから、文部科学省、総務省、東京都教育委員会などから、18歳選挙に向けた準備教育の具体的な提示があると思います。選挙違反にならないためのルールの周知はもちろんですが、それ以上に、実社会の課題を捉え、課題解決に向けた自分の考えをまとめていくことが必要でしょう。

田高での学習は、投票するために必要な基礎的、基本的な力を身につけることに繋がります。多角的な視点を持ち、論理的に考えること、また、批判的な姿勢は重要です。投票するには、生徒自身が判断し行動することが求められます。選挙権を与えられるということは、一人ひとりが高校生から成人としての責任を担うということです。生徒には、より積極的に課題意識を持って自ら学ぶ姿勢を身につけてほしいと考えます。ご家庭などでも、政治や経済などについてお子さんと話題にしてもらえればと思います。

*加藤陽子「それでも日本人は「戦争」を選んだ」（朝日出版社、2009年）



アメリカの模擬投票の様子

校庭改修工事等のお知らせ

経営企画室

平成27年8月24日から平成28年3月末まで、「校庭改修工事、防球網改修工事、芝生化工事他」を実施します。ご不便おかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

今日、学校や教育を取り巻く状況は大きく変化しようとしています。

現在、文部科学省の中央教育審議会では、今後の教育の方向性と次の学習指導要領改訂に向けて審議を進めているところです。その答申の中で、気になるところは高等学校の教育内容や学習や指導方法及び評価方法等の見直しを検討している点です。近い将来、その審議会で検討された内容が、学校現場で実施することに繋がるからです。

答申には、高等学校における教育内容については、「国家及び社会の責任ある形成者として、自立して生きる力を育む観点を一層重視することが必要であり、そのための教養と行動規範を涵養することを含めた取組の充実を、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の導入と並行して進める」とあります。さらに、学習・指導方法についても、言語活動の積極的な導入をはじめ、生徒が受け身でなく主体的・協働的に学ぶことを促す方法へと進化を図るとなっています。つまり、今後の高等学校においては、何を教えるかではなくどのような力を身に付けるかの観点に立って、上記の力を確実に育むため、指導内容に加えて、学習方法や学習環境についても抜本的に見直すとなっているのです。

このような審議会の答申や今日の教育を取り巻く状況の変化をみるたびに、中学3年の時に出会った一人のある恩師のことを思い出すのです。当時の稿者はやさぐれていて、英語に関してマンツーマンの指導を受けざるを得なかった状況にあったのです。

その老師は、学ぶことに己の全力を傾けた結果、視力を極端に悪くしていました。老師は、大きなルーペを2つ重ねて、中学生のテキストを舐めるかのように丹念に読んでおり、その姿は近寄りたさを感じさせるほどの厳然な雰囲気を持っていたのです。壮年は大学で研究教鞭をとっていた老師が、中学生のテキストをあたかも言語が生成したときの感銘さを受けるかのように読んでいるので、傍にいた稿者はその姿に畏敬の念を覚えずにはいられませんでした。あるとき恐れを知らぬ稿者は、老師に尋ねたのです。「先生は、中学生のテキストを懸命に読んでいて飽きぬのですか・・・」。老師は「読むたびに新たな発見がある・・・」とおっしゃっていたのです。

授業方法はいたってシンプルで、稿者が英文と日本文の往還を繰り返すのみでした。ただ時折、老師より内容について質問を受けるのですが、その質問内容の奥深さからは、あたかもソクラテスから叡智を受けるような緊張感を覚えていましたが、今振り返るとその時の口伝相伝のような教えが、現在の自分に多大な影響を及ぼしていると感じざるを得ません。

教育においては、変化していく部分と古来より変わらずに積み重ねられていく部分があります。そのことを中央教育審議会の答申を目にする度に、老師の姿と併せて考えるのです。学ぶと言うことと教え伝えるということ。その温故知新の姿が教育の真の姿のような気がしてなりません。

今後も様々な環境下にある学校を見守っていただくとともに、お声をかけていただければと思います。

生活指導部より



体育祭担当 佐々木 務

体育祭予行は、予定通り実施できましたが、夕刻から雨が強まり当日のグラウンド状況が心配でした。天気予報以上に雨の量も多く、朝6時には、小雨が降っていましたがグラウンド整備をして開会式を遅らせて実施することを決めました。7時過ぎには、続々と生徒が登校し、ぬかるんだグラウンドの整備に生徒、教職員そしてPTAの保護者の方々も加わり一丸となって取り組みました。

各競技では、生徒1人1人が練習の成果を出そうと一生懸命に取り組む姿に心を打たれました。

今年度、最初の全校行事である「体育祭」をやり遂げ、クラスの団結力が高まるとともに、生徒1人1人の今後の学校生活に何か生きるものがあれば幸いです。

最後になりますが、今年の体育祭も生徒、教職員、PTAの方々のご協力により、無事終えることができました。心より感謝申し上げます。



○昨年度の進路状況について

今春卒業した63期生の進路決定状況を報告します。

	大学	短大	専門その他	就職	未定・浪人	留学	計
男子	74	1	10	2	30	0	117
女子	79	4	17	1	11	0	112
計	153	5	27	3	41	0	229
(%)	66.8%	2.2%	11.8%	1.3%	17.9%	0.0%	

(注) 就職女子1名は、防衛医科大学校。

4年制大学現役合格者の受験形態について

	指定校推薦	公募制推薦	AO	センター	一般	計
男子	11	4	2	39	101	157
女子	14	6	12	43	85	160
計	25	10	14	82	186	317

詳しくは、後日配布の「SUCCESS!」をご覧ください。

4月に行われた進路希望調査では、各学年ともに4年制大学志望者が90%を超える結果となっています。この進路希望を実現するためには、計画的に学習していかなければなりません。3月に現3年生対象に行われた「先輩の体験を聞く会」では、卒業生が、「早く勉強を本格化し、受験生になってください」、「普段の授業を大切にしてください。」などと強調していました。



○テーマ別キャリアガイダンス年間予定

- 第1回 保育のしごと (5/11 終了)
- 第2回 看護医療のしごと (6/15 終了・右写真)
- 第3回 公務員のしごと (11月予定)
- 第4回 獣医のしごと (12月予定)
- 第5回 カウンセラーのしごと (2月予定)

各回、放課後に行っています。興味を持たれた保護者の方もご自由参加してください。

進路指導部では、生徒一人ひとりが進路実現できるようサポートして参りますので今後ともよろしくお願いたします。

1学年より

1年A組担任 玉田 将太

今年の体育祭も当日の早朝までは天候に悩まされるものとなりましたが、開会式が始まる頃には天気も回復し、全種目を無事やり終えることができました。

1学年も入学してから3大行事の1つを初めて迎えることとなりましたが、体育祭実行委員を中心として朝・昼・放課後の練習に励む姿が至る所で見られました。練習の成果が本番の結果に結びついたクラス、残念ながら結びつかなかったクラスとありましたが、体育祭を終えた生徒の顔は晴れやかで充実感、達成感がひしひしと伝わってきました。体育祭という1つの行事を経験して1人1人大きく成長してくれたことと思います。



体育祭の練習をする一方で、ぼろにあ祭に向けた動きや合唱祭に向けた練習も進んでいました。2学期にある文化祭は各クラスの企画もあり、よりクラスの色が見える行事となると思います。どのクラスも全ての行事において1人1人が輝き、活躍する姿の見られることを期待しています。

2学年より

2年A組担任 荻原 秀明

2年生の生活も早くも2ヶ月を経ちました。4月に新クラスを発足、様子見で猫かぶりの様子が見えていましたが、5月の横浜遠足を過ぎた頃から和気藹々と過ごす姿が見られる用になりました。6月に体育祭を終え、一致団結を経験しました。朝練習・昼練習・放課後連習と、よく練習しました。結果は、C組の勝利で幕を下ろしました。修学旅行が10月実施となり、1年生の3学期から実行委員会を発足し活動をしてきました。現在、総合学習で、研究テーマの調べ学習をしています。「先住民族との共生」「地域研究」の2本立てで、各クラス6班2枚の壁新聞を作成中です。ぼろにあ祭には、2年生ブースを作り発表します。

忙しい中、個人面談を実施しました。進路希望や勉強時間、クラスのことや部活など様々な話題が登場、悩み相談もありました。中間考査が終わり努力結果を手にした者がいる反面、何とも寂しい結果の者も数多く存在しています。期末考査を2週間後に控え一杯頑張りたいと願っています。進路実現に向けた取り組みを期待しています。また、夏休みに向けて、普段出来ない活動の計画も期待しています。



3学年より

3年A組担任 有馬 聡

体育祭が終わりました。結果はクラスによりそれぞれですが、3学年総体としては田高の最上級生として体育祭の企画や運営、エキシビションの中心として学校全体をリードし、また、クラスTシャツを作ったり、時間を見つけてはクラスごとに各種目の練習を繰り返したり、最後の体育祭を十分に楽しんでいたようです。



次は、いよいよ「ぼろにあ祭」です。3年生は例年通りクラスごとに体育館で劇を発表します。

演劇は総合芸術といわれています。脚本、たとえば物語（ストーリー）の創造や登場人物の造形などには文学の側面があり、舞台装置や照明プラン、衣装のデザインなどには美術的な側面があります。また劇の中で歌ったり踊ったりすれば、音楽的なセンスやダンスの素養が必要となります。人前に出ることが苦手でも、また美術や音楽のセンスが無くても、クラス演劇には色々な側面があるので、生徒それぞれにできることがどこかにきっとあるはずです。一人一人が自分の得意な分野を活かし、クラス一丸となって取り組めるようにと願っています。

ところでお子様の勉強は順調に進んでいますでしょうか。面談などを通して、それぞれがその目標に向けて計画的に受験勉強を進めている様子が窺えますが、中にはまだ志望校が曖昧だったり、家庭学習の時間が不足していたり、受験科目の基本的な学習内容の定着がまだまだ不十分な者もいるようです。

やるべきことは（勉強も、それ以外も）たくさんあります。まだ部活動を続けている人もいます。ぼろ祭も大切です。色々なことと勉強を両立させるのは生易しいことではありません。「二兎を追うものは…」という言い方もありますが、敢えて二兎を追ってほしいと思っています。困難な道りであることは十分承知していますが、自分の限界に挑戦することが大切であると考えます。

一人一人の思い描く将来の姿に一步でも近づくことができるようにサポートすることが、我々3学年担任の仕事だと考えています。ご家庭でも時には優しく時には厳しくお子様を励ましていただければと存じます。

